

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
(読むこと) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり想像を広げたりしながら、相互関係や心情などを捉えて読む力を身に付ける。	(書くこと) 自分の考えを明確にし、相手や目的、意図に応じて書き表し方を工夫して書く力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	- 音読の際、言葉の意味を考えたり、内容を理解したりすることに苦手意識をもっている児童が見られる。また、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもったり、その感想を友達と共有したりすることに課題が見られる。ア - 書くことでは、促音や拗音を正しく表記したり正しい助詞を使ったりすることに個人差が見られる。また、経験したことや想像したことから書くことを見付けて書ける子、書くことが決まらない児童の進度の差が大きい。イ	- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読させる。ア - 友達と感想を伝え合ったり、分かったことや考えたことを伝え合ったりする活動を行い、協働的に学ぶことのよさを感じられる授業を展開する。ア - 宿題や朝学習等で促音や拗音、助詞の正しい使い方をプリントで繰り返し学習する。イ - 書くことが決まらない児童には、他児童の考えを紹介したり、「いつ、どこで、誰と、何をした」を聞き取り、個別に指導を行ったりする。イ	通年 通年 通年 通年	- 初発の感想を書かせたり、ペアやグループでの協働的な学習活動を取り入れたりすることで、学習意欲の向上が見られ、心情理解の学習にすすんで取り組むことができた。また、登場人物の気持ちや様子を考え演じることを通して、話の内容を想像しながら読むことができるようになってきた。ア - 授業中の机間指導や反復学習などを繰り返し行うことで、促音、拗音などを正しく表記できる児童が増えてきた。イ
第2学年	- 文章を読み、登場人物の心情を考えたり表現したりすることはできるが、どの部分の叙述からで考えたのか明確にできない児童が多い。ア - 自分の考えを相手に伝わるように分かりやすく書くことに課題のある児童が多い。イ	- 心情を考えさせる学習では、叙述に注目できるように、心情を想像できる文章にサイドラインを引いたり全体で確認したりする。ア - 普段から語彙が増やせるような活動を取り入れたり、読書に親しませたりする。また、作文指導や漢字の学習などの指導時に教科書巻末の「がくしゅうをひろげよう」を活用して振り返ることで基礎基本が定着するようにする。イ	通年 通年	- 教科書に書き込ませたり、線を引かせたりする指導を継続することで、叙述に注目できるようになり、根拠をもった読み取りができるようになってきた。ア - 読書旬間等、読書の機会を増やしたことで、語彙が増えてきた。書く指導については、原稿用紙の使い方、文章の書き方を丁寧に指導することで自分の考えを整理しながら

				ら書くことのできる児童が増えてきた。 ☐
第3学年	・人物の行動や情景、会話などの細かい表現に着目して読むことに課題のある児童がいる。☐ ・主語、述語が合わない文になったり、助詞の使い方を間違えたりする傾向がある。モデル文があれば書けるが、自分で考えて伝えたいことを構成して書くことが難しい。☐	・細かい表現に着目できるよう、視点をはっきり示してから読ませたり、大事な言葉にサイドラインを引かせたりする。☐ ・家庭学習の機会を利用し、短い文章を書く機会を設けたり、書いた文章を声に出して読ませたりするなどして、間違いに気付く力を高める。(ペア学習など)文を書く時に目的をはっきりさせ、構成させてから書くようにする。☐	通年 通年	・物語文の学習では、教科書をスクリーンに映し、大切な言葉を囲んだりサイドラインを引いたりして会話や登場人物の気持ちが分かる言葉や文に着目させた。このように学習を進めることで、気持ちや行動の変化に気付くことができた。☐ ・書く活動を丁寧に行ってきた結果、書くことに対する抵抗感がなくなってきた。例文を示すことで、書き方が分かるようになり、多くの児童が正しい文章を書けるようになってきた。☐
第4学年	・人物の気持ちを捉える際に、根拠が曖昧で読みが深まらない場合がある。☐ ・主語と述語が合わない文になるなど、文の構成が整わなかったり、語彙が適切でなかったりすることがある。☐	・文学的な文章の読み取りでは、登場人物の気持ちを読み取る際に、人物の行動や会話に着目させ、性格や境遇を想像させることで、根拠をもった読み取りができるよう指導を充実させる。☐ ・文章を書く場合には、句読点の適切な打ち方を指導する。また、主語と述語の関係を意識させ、一文が長くならないように指導する。添削による個別の支援で書く力を高められるようにする。辞書を適宜活用させ、語彙を広げさせる。☐	通年 通年	・読み取りの視点を提示したり、サイドラインを引かせたりしたことにより、行動や会話に着目しながら読み取る児童が増えた。☐ ・文章例を見せたり、ワークシートを活用したりしたことにより、文章構成を意識する児童が増えた。簡単な文章から書き始め、添削して正しい文章に直す活動を取り入れたこと

				で、書く力が高まってきた。【イ】
第5学年	- 文章の要点をまとめることが難しい児童がいる。【ア】 - 叙述を基に登場人物の心情を捉えることはできるが、情景描写や記述のつながりなどから心情を読み深めたり、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したりすることが難しい。【ア】 - 自分の考えを明確にもてない児童がいる。また、文章を書くこと自体に抵抗感を示す児童が一定数いる。【イ】	- 事前に文章構成を捉えたり、要点のまとめ方を示したりする。【ア】 - 情景描写のつながりや、登場人物の行動、他の人物の心情等、読みの手掛かりとなる挿絵などを、ICT機器を活用しながら示す。【ア】 - 例を示したり、選択肢を与えたりすることで、どんな文章構成がよいか考えさせ、自分の文章に取り入れるようにする。【イ】	通年 通年 通年	- 事前に文章構成を捉えることで、重要な段落から要点を抜き出し、まとめることができた。【ア】 - ICT機器を活用し、学習の視点を明確にすることで、叙述に基づいた読み取りを進めることができるようになってきた。【ア】 - 文章を書く前に、例や選択肢を示すことで考えを整理させることで、自分なりの文章を書くことができるようになった。【イ】
第6学年	- 登場人物の心情を想像することはできるが、叙述や情景に即して考えることに課題がある。【ア】 - 相手や目的、意図に応じて内容の中心を明確にして書くこと、話すことにおいて課題がある児童が多い。自分の考えを整理し、根拠を明らかにしながら明確に書いたり、話したりする児童とそうでな	- 単元の導入時に児童の初発の読みから全体のめあてを考え、学習の見通しをもたせる。また、情景や叙述に即して考えさせるために、考えの根拠を問う発問をし、文章中のどの叙述、どの情景描写に着目したかを記述させる。【ア】 - ロイロノートを活用し、友達の書き方のよい点を参考にするなど、協働的な学びを取り入れる。その際、目的や意図に応じて詳しく書くことができている文章を紹介し、自分の書いた文章と比較して振り	物語文単元 通年	- 着目した点を明確にし、ロイロノート等で共有することで読み取る際の視点を明らかにすることができた。また、考えの根拠を問う発問の工夫や、着目した情景描写を明確にする問いかけにより、情景や叙述に即して考えることができる児童が増えた。【ア】 - 手本となる文を例示することで自分の文と比較したり、構成を参考にしたりする児童が増えた。しかし、話の中心を明らかにして書くこと

	い児童の差が大きい。イ	返る時間を設けることで文章構成を確かなものにしてい。イ		において個人差が大きく、個別の支援が必要である。イ
--	-------------	-----------------------------	--	---------------------------

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年:ロイロノートを使い、かな文字入力を使って文を作る練習をする。文字を書くことへの抵抗を軽減させながら、すすんで文を正しく書こうとする態度を育てる。また、作成した文を使って、それを発表したり、友達と交流したりする。【重点:個別】 2年:個に応じた声掛け、支援をするとともに、グループでの意見交流の場などを設定する。また、ロイロノートの提出機能を使い、児童がそれぞれの考えを交流する場面を意図的に設定する。【重点:協働】 3年:ロイロノートを使い、児童がそれぞれの考えを確認したり質問したり、教材を活用したりする場面を意図的に設定する。【重点:協働】 4年:多様な考え方を引き出す発問や課題設定を行うとともに、ロイロノートを活用し、互いの考えを確認して、友達のよいところを自分の考えに取り入れられるようにする。【重点:協働】 5年:児童によるめあての設定、学習計画の立案を行う。ロイロノートを活用し、互いの考えを確認して、友達のよい考えを自分の考えに取り入れられるようにする。【重点:協働】 6年:ロイロノートを活用し、互いの考えを共有して、友達のよい考えを自分の考えに取り入れられるようにする。【重点:協働】	1年:学習のめあてを児童と共に考えたり、学習の振り返りをさせたりすることで、次時への意欲につながるようにする。学習の見通しを示すことで、主体的に学習に取り組めるようにする。 2年:本時の学習の流れを示し、児童が本時に見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。自分の考えや分かったことなどを振り返る学習感想を書く時間を取るようにする。 3年:友達との学び合い後には、自分の考えの変化などを振り返る学習感想を書く時間を取るようにする。 4年:学習課題に対して目的を明確にしたり、必要性を感じさせたりする。終末に振り返りを行う。本時の学習の流れを示し、児童が本時に見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。 5年:单元ごとの教師の指導の意図を基に、児童自身が学習のゴールを意識し、そのためのめあてを考え、单元の最後まで学びに向かっていけるよう配慮する。めあてを振り返るとともに、次時の学習の見通しをもつ。 6年:学習の進め方や单元を通じて身に付ける力を児童と明確にする。